滿州日報

集市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集市共上車三十餘輛
邊市共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

全 全 全 赤札 蜂印香 幌 味 葡萄酒 麥酒 噌
全 九 全 大樽 四斗入 全
同十一圓 同五圓 同四圓 同九圓三十錢 同九圓八十錢 同二十二圓五十錢

總 全 筍 梨 桃 人形
蒲 燒 卷 ミルク
八打 全 二打半 四打 全 全
同十三圓五十錢 同二十三圓 同八圓五十錢 同十一圓 同九圓五十錢 同十二圓五十錢

一中等塊炭 一全 切込 澤龜 サツポロビール
全 全 全 正味四斗四升入
全 十五圓五十錢 十四圓五十錢 十七圓 九圓七十錢
(宅合名會社調査)

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日者每行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議從減
每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line. Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料　一半ケ月以上一ケ月以內　錢十五仙乃至十山
一長期連揭減價面議
發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社　(電話二九番)

告示

關東總督府
陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得橫濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異銀元通用極便商賓爲之暢通實於商務有益已爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其膺日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是橫濱正金銀行玆奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色人民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票視同軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸謫之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寬貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

橫濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ距通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ玆ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回収セラルヘキヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸謫ノ徒妄ニ浮說ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

三井洋行

敬啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷着

●精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部

今回倉庫所在地(舊推子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は今所へ御照會被下度願上候(電話百二十八番)

合名會社

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒濱鶴印幷一切雜貨其名舉已傳播於滿洲全地今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿紗布火柴絲布綢衣帶標布手巾花巾東洋紗子洋緞綢表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商譔凡一切中外士商賜顧者請屢臨爲幸

總司理人　田中嘏之助謹白

♣東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口東西兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利號載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人　葉亮卿謹白

♣東永茂

本號開設在營口創辦油榨生意多年以本號業非祗做油房壹概及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁
設在營口西北街路南

♣西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致誤

本主人敬啓

♣仁裕號

係裝運各物火輪船生意兼賣各料洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十二號

♣恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己幷另設銀爐包銷鎔鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

♣元茂盛

油坊買賣元荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙寶鴨船交易南北客商歷有年矣爲此謹白

開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

♣代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟　星象牌(斯達)櫻花牌(撒利)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製鳳仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話　十番　支配人室
　　　百八番　事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部
河岸通(電話五十二番)

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所

大連市薩岐町三百三十八號　日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地　岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同　全泰號
遼陽　遼陽倶樂部　谷口今朝太郎

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す(取扱主任産婆大道しげ子)

院主　森　鐈
醫長　鈴木昌平
營口永世街　(電話一五五番)

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物産合名會社　牛莊支店
(電話六十六番)

♣和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、鏤袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

♣田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面議是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號本野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名遐邇以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不惧再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

米國製白麵發賣

英組大連支店
大連市羽前町千八番戶

飯塚工程局材料部

營口元神廟前　(電話百三十五番)

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

東京電報

●二法案愈々可決 本月六日本期議會に於ける二大問題の一たる減債基金法案は政府案通りに決定する事となりたるが昨八日の衆議院本會議に於て愈々可決せられ右減債基金法案通過と同時に非常特別税法案も本會議に於て愈々可決せられたり （二月九日發電）

倫敦電報

●英國の國民射的會 英國ビスレーに於て開かるへき次期の國民射的會はマレー及びウガンダ兩殖民地より選出せる射手の競射ある旨發表せり

●樞密院の宣言書取消 ダブリン樞密院は行政處分法に據りて發布されたる宣言書を取消したり

●佛國寺院の騷動 佛國アレンソン、シエルブルグ、及びサンクルーの各地寺院に於て檀徒の人名記入中騷動起り暴徒は寺院に侵入して懺悔所を燒き聖母の像を河中に投せり （以上二月七日發電）

●佛國前大統領の接待 佛國前大統領ルーベ氏は最も慇懃に倫敦市會議員の一行を接待せり

●共同團体の巴里來遊 エジンバラ共同團体の一部は來る四月を期し巴里に遊ぶ筈なり

●里昻市政團體の往遊 佛國リオン市の市政團体は英國マンチエスター市の招待に應じ同市に來遊すへし

●革命未鎭定の證 露國ソスノウイース、オデツサ及びビーロストツクの四地に於て不意に爆發せる爆裂彈の爲めに多數の死傷者を生せり仝時にダントに於てコーエルスキーなる者逮捕されしが同人の住宅には小銃二百挺銃彈二万發拳銃五十挺を藏し置けり、以上の事實は露國に於ける革命騷動の未た全く鎭定せすして革命家は只た時機を待ちつゝあることを示すものなり （以上二月八日發電）

雜報

●戰捷大觀兵式 來る四五月の交擧行せらるへき陸軍大觀兵式には皇太子殿下、各皇族殿下を始め奉り各元老、各大臣、各大將、各師團長、各旅團長以下各將校、親任官、勅任官、兩院議員、戰時奉公各團体、赤十字社員、新聞社員等無慮五十万人拜觀する筈にて陸軍省及び參謀本部にては本日數十名の委員を任命したるが委員長は大山參謀長にして本鄕、宇佐川、井口、福島、松川、村田、大澤の各將官も皆委員を命せられたり

●凶作地御救恤 宮城、福島、磐手三縣下凶歉のため人民困難の趣聞召され天皇、皇后兩陛下より御救恤として去月三十一日左の如く御下賜ありたり

一金二萬五千圓 宮城縣へ
一金一萬五千圓 福島縣へ
一金 一萬圓 磐手縣へ

●日淸條約公布 一月二十九日附を以て左の勅令を公布せり
朕明治三十八年淸國北京に於て朕か全權委員と淸國全權委員との記名調印したる滿洲に關する條約を批准し玆に之を公布せしむ
（本文略）

●東露動亂準備 烏港に於ける豫備兵及び勞働者の動亂は一旦鎭靜したるも一月下旬に至り再び暴發し其勢ひ前度に讓らさるが聞く所に據ればイルクツクの東部西伯利亞勞働團にては昨年十一月米國に向つて委員を派遣し同地在留露國人間に同盟罷工其の他の資金を募集しつゝあり一說には委員の中若干名去る一月四日同所より烏港に歸着したる由なれば或は今回の動亂は更に其範圍を擴張して東部西伯利亞全體に波及するならんと云ふ因に烏港の哥薩克兵は叛徒より支給を受けつゝありと

●駐淸公使更任說 戰後我外交の發展と共に歐米の重もなる諸國とは大使の交換あり韓國には外交官を要せさることと爲りたる等よりして外交官に大異動を生したるが我駐淸公使も亦更任すへきやの說あり現任内田公使の行先に就きては現次官珍田氏出でゝ新設大使館大使と爲り同公使其後を襲ぐべしとも或は直に新設大使館に轉すへしともいひ未た確說を得すと雖も内田氏の後任として現駐韓林公使最も呼聲高しといふ記して後報を俟つ

●東三省の教育刷新 奉天學政李家駒は東三省の教育刷新のため大村落には一學校を建て小村落には二三聯合して一學校を建て學齡兒童をして强制的に就學せしめんとて目下學齡兒童の調査に着手中なりといふ

●滿洲博覽會と石塚長官 滿洲博覽會に就ては石塚民政局長官熱心に是れが斡旋に勉め居り此程大阪に立寄り同地其他三商業會議所當事者と會談右博覽會會場は出品者の是れを承諾するに於ては永久商品陳列館と爲さん希望を述べ商業會議所側は別段の異議無く此上は不日人選して渡航の上萬端の準備を定め規則成立の上は事務を出品人團體に引渡さん所存にして速に出品人協會の成立を望み居れりと

●東三省の通商大臣 淸政府は今度の日淸條約により東三省に於て多くの通商場を設くるに就ては一大官を選んで通商大臣となし事務を整理せしむる由にて一說には奉天將軍を以て同官を兼務せしむる筈なりともいふ

●理事官任命

任京城理事廳理事官兼統監府書記官 領事 三浦彌五郎
任京城理事廳副理事官 領事官補 出淵 勝次
任仁川理事廳理事官 領事 加藤本四郎
任仁川理事廳副理事官 領事官補 本部 守一
任馬山理事廳理事官 領事 三増久米吉
任木浦理事廳理事官 領事 若松兎三郎
任群山理事廳副理事官 領事官補 鈴木 榮作
任鎭南浦理事廳理事官 副領事 染谷 誠章
任釜山理事廳理事官 領事 有吉 明
任元山理事廳副理事官 領事 田結卯三郎
任城津理事廳理事官 副領事 大木安之助
任平壤理事廳理事官 福島縣事務官 菊池武一

●陸海軍兩元帥 去三十一日午前十時三十分野津陸軍大將伊東海軍大將を宮中に召させられ特に元帥の稱號を賜はり左の御沙汰あらせられたり

陸軍大將從二位勳一等功二級伯爵 野津道貫
海軍大將從二位勳一等功二級子爵 伊東祐亨
元帥府ニ列セラレ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ

●樺太との交通復舊 碎氷船大禮丸破損のため本土、樺太間の航海は一時杜絕の姿となりしが同船は去廿四日橫須賀に於て修理工事竣成し直に靑森に廻航し夫れより樺太に向ひ從前通り定期航海に就くべしといふ

●農民の示威運動 糞尿を岡山市の經營となすとに決したるより附近農民無慮一千五百名之が善後策を講ずと稱し去廿八日後樂園に集會を開き示威運動を試み今後農家の肥料は阪神地方より共同購入すること及び今後日用品を岡山市より購入せず他の地方より共同購入することを決議し形勢頗る不穩なるより警察署よりは警官數十名を場の內外に配置し警戒頗る嚴重なり

●早稻田淸韓協會の改稱 同會は去廿七日例會を開き名稱を早稻田日淸協會と變更し事務所を早稻田大學淸國留學生部事務所內に移し尙會則第五條に淸國學生との親睦連絡を圖り相互の智識交換を期すと追加するに決し大に今後の發展を謀ると云ふ

●高等農林學校增設 文部省にては戰後經營として大に各地方の實業教育を奬勵する方針にて過般來夫々調査中の由なるが來四十年度に於て全國數箇所に高等農林學校を增設することに決し目下其の位置に關し詮議中なりといふ

●滿洲貿易組合組織會 靜岡縣滿洲貿易組合組織會は去廿八日縣廳內に開會定款議定株金五十万圓の目的を以て設立の件其他を協議したるが當日の出席者は縣下の有力家百餘名なりしと

●常陸山に月桂樹を贈る 芝三田育種場主人磯村貞吉は回向院に於ける常陸山の全勝を祝し去る廿五日高さ二尺の月桂樹を同力士に贈りたりと

●凶作地と日本鐵道 日本鐵道會社にては東北三縣凶作地救濟の爲め書面を添へて金一萬圓を寄附したり又重役諸氏よりも各々寄附ありたり

●軍事通信員銃殺 松山俘虜收容所に收容中屢こ奇警の言を放ち愛嬌を振蒔き居たる露國軍事通信員タダ！エフ外二名は歸國の後日探と認められ銃殺の刑に處せられたる旨同地俘虜の許に通信達せりといふ

●英國博物學者の新高探險 英國博物學者オーター、グツド、ヘーロー氏は博物標本採取のため臺灣に渡航し總督府の許可を得て去月六日通譯一名、警部補一名、巡査一名と共に新高山に登りたり山に約二ヶ月間滯在して充分なる調査を遂ぐる豫定なりと

●石塚民政長官の談

▲撫順炭坑と東淸鐵道 撫順炭坑は滿洲富源の尤たるものなり而して之が藏炭高は精確に知ると能はされとも五億噸內外なりといふを以て當れりとすべく中岡浩太郞氏の如きは十二億噸以上に上るといふも恐らくは誇大に過ぎざるべし而して其炭層は厚さ二百尺に達し延長八里乃至十二里に及ぶ假に豫想の半額即ち二億五千萬噸の蓄炭とするも一ヶ年百萬噸づゝ採掘し二百五十ヶ年にして始めて採掘を了する事を得べし目下は一日千噸內外を採掘しつゝあるも今後各種の設備整ふに於ては一日に三千噸を採掘する事を得べきなり而して撫順炭坑と相俟て利用すべき東淸鐵道の軌幅問題に付ては世上種々の議論あり露西亞の鐵道の如く五呎とせば彼我の接續上便利ならんも斯くせば內地の機關車を同鐵道に應用すると能はず一旦事あるときは直に列車及び機關車の不足を感ずるに至るべく又四呎八吋とせば京義鐵道との連絡上便利なれども是亦五呎式と同樣の缺點あるを免れず要するに問題は內地の鐵道を凡て廣軌となすか滿洲鐵道を內地の鐵道と同軌となすかの二點に歸着す內地鐵道を廣軌となすとは時勢の進步上最も必要ならんも財政上非常に困難なるべし戰爭にて鹵獲したる五呎式の機關車を二吋縮少して之を京義線に應用したるに些の故障なく運轉を繼續しつゝあり二三吋位ならば之を狹め若くは廣むる事困難にあらざるも一呎以上の相違ありては到底應用すると能はず而して鐵道の便利備はるに至らは撫順炭は益々利益を增加すべく目下撫順炭は大連に於て一噸六圓內外にして之を內地に輸送するも尙非常に低廉なる石炭を供給する事を得べし然れども餘り安價に過ぎては內地石炭業者の恐慌を來すべく是れ大に斯業專門家の講究を要する處なり九州炭の如き最も安價のものにして一噸十四五圓を下らざるべし撫順炭の炭質善良にして低廉なるに比し雲泥の差ありといふべし

▲吹聽主義を排す 滿洲經營に關しては余は初めより聲を潛めた其實を收むるの主義を取り大に吹聽主義に反對するものなり彼の撫順炭坑の如き我國人士が一時頻に誇張の言を弄したる結果淸國人等は俄に慾望心を起し各種の運動若くは提言をなしたる事世人の知る處なり本邦人中には戰捷の結果滿洲を我物なりと心得頗る我儘勝手の擧動をなすものなり然れども滿洲を淸國に還附すべしとは我國の初めより聲明したる處之を列國の通商貿易に開放すべきは理の當然にして歐米人の投資して事業を營むも今後必ず多かるべし而して國人は進んで此等の競爭に打勝つの方針を取らざるへからず日本人は淸人と同文同種なるのみならず由來淸人と接觸する事久しく殊に戰爭以來一段の親和を加へたるの有樣なれは歐米事業家の競爭に打勝つと決して困難にあらざるへし

▲小學校の設立 關東州民政署に軍政署の事業を引繼ぎたるは昨年の六月なるが目下民政署の一事業として學校の設立を計畫しつゝあり本年四月頃より設立を見るならん尤も直に高等教育を施す能はざるを以て當分小學程度に止め差當り大連と旅順とに設立するの計畫なるが大連には日本居留民六七千人あり學齡兒童も少からず而して學校は內地の小學校と同程度にして卒業者は內地の小學卒業生と同樣の資格を與ふる樣にせん希望なり尙土人に對する學校は早くより設立しあり重に日本語數學等を敎授しつゝありと云々

●輕便鐵道の槪況 營口、牛家屯間の輕便鐵道は昨年の十二月十日を以て開業せられ營口と牛家屯の往復に非常の便利を與へたるも當時は其線路、未た紮定門以外に及はす而して紮定門は殆んど營口市街の東端に位置し乘客に於ても降客に於ても尙は多少の不滿を覺る所ありしに其後更に線路を延長し即ち本月の三日に於て第二市場驛を新設するに當つて初て完全の往復機關となるに至れり今ま其の運賃を聞くに紮定門即ち營口驛より牛家屯迄は一人二十錢にして第二市場驛よりも亦た同しく二十錢なり但し夜分併に雨天又は雪降りの日は二割を加算すと云ふ而して乘車は二人迄は苦力、一人を以て之を押し三人以上四人迄は苦力二人を以て之を押す前者即ち苦力一人押しは四十錢にて後者即ち苦力二人押しは七十錢也、故に乘客一人にて乘り込み他の一人の乘り合ひを待たず發車せんとせは四十錢を仕拂へば可也若し尙は一人の乘合を待ちて發車せば一人の運賃料僅に二十錢を仕拂へば復た足る也三人連れにて二人押しに乘るも異るなし苦力は四人に滿るを待ちて押し出すなれば四人に滿るを待つ能はざれば三人にて二人押し料即ち七十錢を仕拂へば速坐に發車すとなり

鐵道の事務取扱者は各驛共五六名つゝあり其內二三名は軍政署の雇入にて殘餘の二三名は補助輪卒なり補助輪卒は事務の補助者に過ぎず主として扱ふ者は固より雇入に係る者とす尙は苦力は總体に於て今日の所約百八十名あり是等の苦力を使役し併に鐵道に關する一切の事務を日々取扱ふ者は即ち以上の事務員也

更に鐵道の收入を觀るに日に依り仝しからざるも平均すれは一日の收入は大約往復を合算して百二十圓也而して往復の割合は恰も二と三の比例にて牛家屯行は三にて 口行は二なり更に之を人貨に區別して觀察すれは就中四分の一は貨物の運賃也

尙は收支に付て調ふるに開業未た尙ほ日淺ければ確實に計算す可らざるも開業以來一月十日迄即ち最近過去滿一ヶ月間の計算に依れは總收入四千六百圓總支出四千圓即ち約六百圓の純益となり居るを觀る當事者の談に依れは從來は創業費其他に種々の費用を差し引かれ尙は去月の如きは大半は淸國の正月にて土人一般に休業したる等より純益意外に少額なりしも行々は毎月二千圓內外の利益を見るに至らん云々

●牛家屯の近況 牛家屯に於て今日開業せるは旅館併に雜貨店の三四軒なるか其筋の許可を得て今日既に土地家屋等を借り入れ若々開店の準備を爲せる者十四五名あり其の大部分は旅館併に飮食店なるも中には鐵道貨物の取扱に便利を與ふるを目的とする營業も一二軒はある如し而して之等の營業は構內に於て從事する事を許されありと尙は現在開業の分は凡て構外に存在せるが旅館も飮食店も乃至雜貨店も皆な相應の繁昌を觀て殆んど不景氣を知らさるの風なり新に業を開くへき十四五軒愈々開業するに至らは牛家屯も相應の繁華を呈するを得んか

●旅行者の注意 近頃往々旅行券の期間已に經過し居るに之を携へ平然として汽車に乘る者あり大石橋驛等に於て大抵發見せられ大目玉を頂戴せし上に五圓以上五十圓以下の科料に處せられつゝありと旅行者は一般に注意すへし

●日淸實業協會 來る日曜日を以て例會を開催し日淸兩國の會員一堂に會合の上二三時事問題に付き互に談合するの豫定なりと因に會場は西營口の公議會なりと云ふ

●牛莊商業會議所 毎月二十日過の第一火曜日に委員會を開催するの例なりしも去月は恰も會員の大部分に差支へあり遂に開會する能はざりしを以て本月は豫定の期日には相違なく開會し種々の問題に付き評議する筈なりと云ふ因に日本の東京大阪併に英米各地の商業會議所より雜誌類を寄送する者近來甚た增したりと

●喜多八の宿屋通ひ 恐ふ身は吾妻コートに丸頭巾裏は甲斐絹の鼠鳴きとは誰が言ふた文句か知らねども當世の姐さん連が宿屋通ひの姿にも似ていと餘情あり玆に第三樓の喜多八と云ふ三毛猫は兼てより數多商人ある中に妾の好きなは唯獨りと深くも契りし男は誰れあろう昨日退去處分を受けたる優さ男の壯士役者にでもあらう松澤秀雄とやら云ふお方にて何つの頃よりか喜多八と深くも言替はして一日逢ねば何とやら互に濟まぬ逢瀨をばこの頃喜多八は每夜の如く少さき女子を連れて降る雪、吹く風、寒さ道中を更に厭しともせず宿屋に通ひて樂しき一夜を明かし翌朝に亂れし鬢のホツレを北風に吹かせつゝ歸り來れるが常なるに今度可愛い男の退去處分に夢かとばかりに驚き今は第一營口ホテルにてどうしようかうしよう一層の事二人連れ立ちて內地へ歸らうかと密談最中と或人の記者に語りしを書くの如し

●でたらめ草 戰爭前は滿洲及び東露方面の醜業婦と言つたら九州殊に島原天草者に限つて居た▲併し最近芳原の統計を見ると總計二千五百八十三人中東京四百八十一人、新潟三百七十四人、岐阜三百三十八人、愛知二百六十六人三重二百十一人、茨城百四十四人で九州者は福岡が一人ある許りである▲此統計から考へて見ると日本向醜業婦の產地は新潟及び尾濃勢で外國向醜業婦は九州の獨占と謂つてもよい▲だが戰爭終結後の今日と爲つては外國向も獨り九州人の一手販賣といふ譯に行かないで鴨川の水で磨き上げた京美人や花の都の江戸ツ子姐さんが到頭お株を奪つて仕舞ふとに爲つた（△△坊）

▲上行車時刻表
車站名 開午點分 到午點分
新民屯至溝幇子 上 六、〇〇 上 九、五七
營口至山海關 上 八、二〇 下 六、〇〇
山海關至天津 [illegible]

▲下行車時刻表
車站名 開午點分 到午點分
北京至山海關 上 八、〇〇 下 六、二〇
北京至天津 上 一一、二〇 下 五、四一

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表
大連奉天間下り列車
驛名 發着時刻
大連 發午前 [illegible]
遼陽 着午後 三、五〇 發 四、五五
石橋 着 一〇、三二 發 一一、三五
金州 着翌前 二、二〇 發 三、一〇

旅順大連間上り列車
旅順 發午後 二、〇三
大連 着 五、三二

營口線下り列車

天氣
營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及び地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく廼に地方自治機關の之が爲めに停止し國民敎育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繫ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父毋妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に橫はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我內地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや旣に久しく同情の念轉々已む能はず遙に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期ず江湖の君子庶くば本社の徵意を諒とし應分の義資を投ぜられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす

一、受付期限は二月二十八日迄とす

一、義捐金は直に本社に送附せられたし

一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし

一、期限後は之を一纏めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし

一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

滿韓の經營（澁澤榮一氏談）

日韓の關係は昨年十一月の日韓協約を以て確定し、我政府は新に韓國に統監府を置き政治上特に外交其他の事業は遺憾なく統一され各自區々の施設を戒むることゝなり、對韓の經營は面目を一新せんとするものあり、從て今日に於て今人の最も急務とするものは交通機關の統一にあり京釜鐵道は會社の經營によりて經濟開發を目的とすと雖も、京義鐵道は純然たる軍用を目的とし經濟的觀念は殆ど之を度外に附せり、韓國縱斷の交通機關は斯の如き性質の全く異なれる二ヶの鐵道より成り、其聯絡も亦未だ充分と稱するを得ず。此二線は今後之を民間に拂下げて營業組織となすべきか、はた又之を官有として軍用を主とすべきか、此等に關しては吾人未だ聞く所なし。且つ夫れ京義鐵道は更に之を滿洲の野に延長して東淸鐵道に聯絡し依て以て北京及び淸國の中原に通ぜざるべからず、奉天安東縣間は輕便軍用鐵道ありと雖も、果して滿韓貫通の中央線たるべきものなるか明ならず。此等の諸線は線路の不完全なるのみならず、其目的性質區々にして一ならず、從て多大の希望を屬し効果を收むること殆ど難きに似たり。想ふに滿韓鐵道をして首尾貫通して活動せしめんと欲せば此等の鐵道は總て擁て一丸となし、少くとも一丸たるべき組織となし、以て交通機關たるの任務を發揮せしめざる可らず。是れ滿韓經營上の第一義となす。

金融機關を整へ內地に普通せしむるは鐵道に次ぐ必要の措置とす。近時韓國に於る手形の濫發。穀作の不良不景氣の襲來等に苦しみ、人を我國に派して救濟の法を講ずるありと雖も、此の如きは畢竟一時的現象にして深く憂ふるに足らざるべし。蓋し韓國の手形は兩班なるもの資本主として商人の背後に立ち、商人として手形を發行せしめ而して仕拂は自ら引受くるものなり、而して手形の發行は往々にして實力以上に達し、一萬圓の資力あるもの或は一萬五六千圓を發行し以て融通を便にするは各地免れざるの數なり。近時幣制改革の擧あるや、舊來の白銅は總て之を引換ふることとなり、手形の所持者は一時に振出人に取付け、爲めに忽ち仕拂を停止するの已なきに至り、手形の濫發、金融の逼迫を來したりと雖も、其因旣に明にして病根と積すべき程のものにあらず、從て幣制改革成り秩序回復するときは此等の不況も漸くにして掃除せらるべきなり。從て貨幣整理と共に金融機關を整備し內地に普通せしむるときは商業取引も圓滑となり且つ增進するを得べきなり。

農業に至ては邦人旣に各方面より着手せるものあり、或は地所を買ひ或は耕作排水灌漑等種々の設備を加へつゝあり、逐次發達の見込あり、只相互の間に何等の聯絡なく統一なきを以て適當なる方法の下に聯絡を通し以て韓國利源の開發に從はんことを望む。

滿洲に至りては余未だ親しく調査の機を得ず、之か經營を說くに憚る所ありと雖も、前記鐵道の統一は必らず斷行する所あるを要す、舊來の東淸鐵道は我國に讓與せられたれば滿韓を通して淸國本部に達する幹線と相並て統一的經營をなし以て其効果を發揮せざるべからず、鐵道の整理と共に海上交通も亦之れ增加し且つ整理せざるべからず、是れ滿洲開發の大要件たれはなり。

●各國人の對韓事業　京城の電氣鉄道其他各種の事業を經營しつゝありし米商コールブラン、エンド、ボスト井ツク商會は今回米國コンネクチカツト州ハートフオード市に設立せられたるコールブラン、エンド、ボスト井ツク開發會社に其所有財產及び營業權一切を讓與し韓國京城に本店を開きコールブラン、ボスト井ツク、ゼルダン、エリオシト、眞木平一郎五氏其事務を擔當することゝなれり因に同會社は米韓電氣會社、米韓鑛業會社（以上合衆國コンネクチカツト州）韓國起業組合、萬國起業組合、滿洲起業組合（以上英國倫敦）等諸團体を代表して日淸韓其他東亞地方に於ける事業經營に當り大に資本を放上する計畫なりと

●米淸貿易の發達　曩に米國政府が淸國移民の上陸に對し禁止的態度を採りしより淸國人の激怒を來し淸商は米國製品の需用を拒絶せんと協議したるも其効果顯はれずして却て昨年一月より十月に至る十ヶ月間の淸國に於ける米國品の輸入額は激增し從來の米淸貿易中最も盛況を呈したる時に比するも倘は倍額の輸出を見るに至れり而して淸國向の米國輸出品中過半以上を占むるものは棉織物なるが今昨年一月以降十月末迄の米國棉織物淸國市場輸出量幷に米國品淸國市場總輸出額を記すれば左の如し

	棉織物輸出量	米國製品總輸出額
一九〇五年	四五一、五〇一、二七一碼	五〇、一〇四、七六七弗
一九〇四年	一七一、一二六、四九三	二〇　五五七、八四
一九〇三年	一七七、〇三七、四七九	一三、三二一、四八〇
一八九五年	三一、七六一、七六五	二、八三四、八〇二

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

一金五圓	營口永世街	安藤誠一
一金三圓	同	安藤圖子
一金一圓	同	植松六三郎
一金一圓	同	小畑國太郎
一金五圓	同　西北街	酒井榮次
一金二圓	同	無名氏
一金三圓	同　井門洋行	井門幸太郎
一金一圓	同	井門せん子
一金一圓	同	井門國子
一金十圓	同　青堆子	臼井忠三
一金三圓	同　西北街	盛佐太郎
一金二圓	同	盛ていち
一金二十圓	同	山本瀧四郎
一金二圓	同　印字局	西本虎次郎
一金一圓	同	田頭つたよ
一金二圓	同	濱島慶三郎
一金一圓	同	同　すゑ
一金一圓	同　西北街	米田みつ子
一金三圓	同	阪本ちか
一金一圓	同　平野町都樓	平井卯之助
一金一圓	同	古川榮吉
一仝一圓	同	鵬はる
一仝一圓	同	瀧川とく
一仝一圓	同	仝やす
一仝一圓	同	八木とみ
一仝一圓	同	中野まつ
一仝一圓	同	野村いと
一仝一圓	同	谷口とめ
一仝一圓	同	笹田とめ
一仝一圓	同	小原きく
一仝一圓	同	小猿きぬ

計七十九圓

通計　三百八十五圓也

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

競爭入札廣告

一生牛皮　約三万枚

右於大連競賣す買受望の者は見積價格百分の五以上

入札保證金

大連本倉庫及營口、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣の各支庫に就き入札心得書、契約書案等熟覽の上明治三十九年二月二十二日午前十一時限り入札書を本倉庫又は前記の各支庫に差出す可し即時開札す

現品は大連本倉庫にて熟覽す可し

契約擔任官滿洲軍倉庫長日匹信亮

明治三十九年二月九日　滿洲軍倉庫

拍賣告白

滿洲軍倉庫長日匹信亮今聲明大連（青泥窪）本倉庫有生牛皮約計參萬張出售有願買者請至本倉庫或至營口、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣等各處支倉庫衙署唯照約章程給價若干買多少開單呈遞各處倉庫衙署皆可其時先交定銀白分之五如無成局仍將原定繳還各處衙署定於明治二十九年二月二十二日（光緒三十二年正月廿九日）午前十一點鐘收單卽時拆封定局立契官滿洲軍倉庫長日匹信亮

明治三十九年二月九日

新荷着　消火器

右今般新荷着仕候間可成至急御申込願上候

營口西北街　英治洋行

廣告

明治參拾八年十一月廿九日夜警の件に付き協議を要すべき事あるを以て日淸兩國人よりの委員全部と淸國營口公議會員二名とを第一派遣所內に招き協議せしめたり

最も夜警を設置したるは明治參拾八年十一月下旬にして日淸兩國人の委員として夫れ〳〵軍政署より指名せられ其委員に於て總て其事務を擔任し來りたるも日淸兩國委員間に於て是迄意思の疏通せざる爲めと側ら協議を要すべき點とにて本日特に全部召集會見協議せしめたるものなり當日日本人側より谷口今朝太郎、村山彌吉、永島貫二の三氏出席他の三名委員は旅行中又は用務の爲め欠席せられ淸國人よりは全部出席せられたり協議したる件は左に

一是迄の夜警は人員不足にして未た充分に第一派遣所管內を巡視する不能依て一月一日より更に八名を增加せしめ（當時十二名）一層當派遣所管內の各衙を嚴密に巡視せしむると

一八人の增加と共に其費用ゝ倍ゝ增加するか故是迄日本人側より其全部費用の三分の一を負擔することゝなりをりしも（約一ヶ月百五十圓の見込なりし）一月以降は日本人側より每月百五十圓を支出し他は淸國人より支出負擔すると

但し二十八の夜巡夫は一ヶ月一人十五圓づゝにして二十八にて三百圓當地家賃油炭其他雜費等約五十圓其他柏子木角燈修理代等にて合計三百五十圓

一總て夜警に要する物品は公議會より支辨すると

一日本人側より支出する金額は其月廿五日迄に取纏め第一派遣所憲兵の手を經て公議會に交付すると

一夜巡夫の監督は軍政署に於て監督せらる

一夜巡夫に於て巡視中火災盜賊其他安寧を害する事あるを發見し特に功勞あるものは日本人側より賞與すると

右の通り第一派遣所受持憲兵井元勇馬氏立會の上決議仕候條此段及報告候也

十一月十二日決算報告

一銀二百七十五圓五十錢也　徵收高

內譯

一銀七十五圓二十錢也　十一月分夜警巡夫費

一銀百五十圓也　十二月分夜警巡夫費

一銀四十六圓三十錢也　帳簿幷に廣告料及び事務員給料其外雜費

差引殘金十八圓也

右之通報告に及び候也

營口第一派遣所管內　夜警委員

藝妓仲居新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口　高砂ホテル

營口　高砂（電話一四五）

一關內外盧漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候

一海關手續　事務取扱　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ

一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱

一船舶荷物取扱

一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大淸通運公司　營口支店

特別室落成披露

座敷は凡て日本式取扱全極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候

金城ホテル旅館部

藝妓仲居新來披露

今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ參り候間不相變御引立の程奉願上候

但し凡て純粹の江戸っ子

金城館料理部

高等旅館　彌生館

營口永世街

館主　宮下只七郎（電四二）

御料理　滿月

平野町一八二（電話一六二）

御料理　滿月支店

平野町（元都樓跡）

今般內地より撰り拔きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
並に瓦、煉瓦
自家製造　廉價販賣
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

正札　特別廉價
雜貨
賣出し
一婦人髪道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々
質屋
永世街森病院隣
和清洋行
志田ます

風藥
登録商標
咳止　祛痰散
哮喘氣急、多痰咯血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、甚至座臥不安、飲食不進、或濡瞬東手而藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也
◎たんせき一切
◎肺病の特薬
◎ひきかせ
醫藥醫料器械
賣藥寫眞藥
營口永世街(南順泰東首)
大阪賣東瀛大藥房

並ニ札幌ビール
朝日ビール
澤亀之醇良にして風味高尚
政府專賣口付紙巻煙草　朝日　大和
酢　醤油　瓶詰樽詰
菓子　鑵詰色々
洋酒類　取次販賣
醸造發賣元
大阪府堺市九間町
北海道小樽湊町
臺灣臺北街書院
臺灣基隆街石牌
臺灣臺南街下南河
北海道函館區辨天町
清國遼陽城内西街
清國大連監部
清國牛莊港東營口
宅合名會社
本店
小樽支店
臺北支店
基隆支店
臺南支店
函館出張店
遼陽出張店
大連出張店
營口支店

會席料理
營口營口警察署前南へ入
三日月

奉天日本旅館
藩陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開業　放全時ニ開業
奉天小西門外大街路北

洲
大阪賣所
營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ
遼陽停車場前
池上出張店
奉天
池上出張店

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)
スペシャルライト賣出し
スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を醸造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり
醸造元　大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣　關東公司雜貨部

標子
木板
發賣
料木
營口青堆子
清水寧木局

譲り渡し
弊樓現在の家屋疊建具付の儘譲渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候
二月四日
平野町
春帆樓

萬事勉強乗車乗船好位置
營口中央市場前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎
(電話百七十八番)

西洋料理仕出し御需應にず
即席和洋料理
東京樓支店
(電話四十四番)

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一(森病院三軒目)
(電話百二十七號)

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

旅館　富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余
南大街　樓主敬白

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店
其外新荷着精々安價販賣

官製口付莨、文房具
和洋酒類
鑵詰、菓子
藥品、雜貨
醤油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
白米
卸商
營口西北街
十
豐生洋行
(電話十三番)

御旅館兼待合所
並にうどん、そば
今般大々的勉強を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前
若松家
各位様

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉強仕候
二奉天支店も本店同様に大勉強仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町
日本館本店
(電話百三十番)
奉天小西門外大十字街北入橋町
日本館支店
(電話十九番)
各位様

山海關至北京　上　八、　下　六、四五
溝幫子至新民屯
山海關　上　六、二五　下　六、二一
營口　上　六、〇〇　上　一一、五八　上り列車　若午後　一二、〇六
海關　上　七、〇〇　下　一四、五五
新民　上　三、〇〇　下　六、五七　奉天　天津午前　一一、〇〇
六、二三　發　七、二〇

宮門抄

十二日
唐紹儀謝授太常寺卿恩
召見軍機
皇上明日卯正二刻至
奉先殿壽皇殿行禮

奏議

盛京將軍趙爾巽辦奉省墾務幷勘放蒙荒振興農政情形摺

奏爲籌辦奉省墾務敬陳辦理大概幷勘放蒙荒振興農政情形恭摺仰祈
聖鑒事本年十一月二十日欽奉電傳
諭旨奉天墾務事宜著趙爾巽妥籌辦理等因欽此遵將接管墾務日期電奏在案查振興本利必以農墾爲大端奉省近年內則辦大淩河東西流水諸荒外則辦科爾沁扎薩克圖鎭國公兩蒙荒非特荒租等項爲救匱之急需且殖民實邊尤固圉之長策前墾務大臣廷杰擬辦清理地畝及丈放錦州河淤等地二十二處均經先後會同奏邀
聖鑒奴才現將奉省墾務通籌辦法一曰先辦錦屬官莊奉省現墾各項地畝有隸圉牧者有係王公勳舊莊廠者有係八旗官地及民人產業者國初撥放多崇寬大後來占闢轇轕日多現期一律淸釐斷非急切所能竣事且官中文冊經廷杰前調查京外各署地尙未齊全民間契據文憑更多散失迷幻惟廷杰前奏戶部內務府莊頭等地積弊日深自應及早淸釐以裕經賦現淸釐各項地畝即先從此入手一切辦法如有應按原奏酌量變通者隨時奏咨辦理俟該處官糧莊頭等地辦淸再推及他處一曰丈放錦屬海退河淤及各處滋生地畝奴才前已會同廷杰將該二十二處奏請全數丈放以杜侵欺而恤兵艱數月以來各委員繩丈所報尙不及十分之一擬飭趕於明年春耕以前逐一丈淸以正經界而濬餉源此外如查有各處滋生荒熟之地亦飭一律丈辦一曰勘辦蒙荒奉天蒙荒除已放各旗外未放之地以科爾沁右翼圖什業圖旗爲最鉅奴才於九月間即飭前辦扎薩克圖等旗蒙荒之道員張心田馳往該旗妥爲勸辦現據報該旗親王業喜海順協理印務台吉德里克尼瑪率同全旗官員等願將東界閑荒出放北自茂改吐等山南至德勒四臺吉巴冷西拉等處南北長三百六十里東西寬一百四十里計得毛荒六十四萬八千晌現議富强蒙部自必以放荒爲先而各旗臺莊向食其利者又多搖惑各王公以阻撓放荒爲得計該蒙旗經奴才勸諭開導即肯呈報大段閑荒爲各旗提倡尤稱忠於爲國奴才已札行嘉勉擬另行具奏請
旨獎勵併將丈放該荒詳細章程分別奏咨其由遼源州至新設洮南府界中及科爾沁右翼達爾漢王旗地二百餘里皆係荒地並無旅店民戶於接遞文報查緝盜賊惠恤商旅均多阻礙擬飭該旗將此段荒地報放或酌放道旁站地期以聯昌洮之形勢收戢匪安民之效扎薩克圖亦查有可續放荒段他若博多勒噶台各土旗併飭查明如有閑荒分別勸舉以濬利源一曰振興農政奉省天府上腴內地北省多有不及而治田無法穡歎聽天坐擁東西遼河大淩河諸川竟無涓滴水利竊謂如採用各國機器治田及內地引渠灌地諸法相度土宜加意經理總可使收穫加豐旱荒有備現已派委員隨同出洋考察政治大臣於赴歐之便詳詢農功考察機器以資試驗併飭各屬先就小河枝水試辦繫渠諸法統俟辦理有效再行上陳現在時局日艱民生重困圖富之計切於圖强就奉事論農墾諸端尤爲當務之急奴才惟有詳加体察殫力經營冀獲得尺得寸之功上副　朝廷重農利民之本意所有籌辦大概情形理合恭摺具陳伏乞　皇太后　皇上聖鑒訓示謹　奏奉硃批著即認眞辦理以期漸收實效欽此

中外要聞

●軍機處議安設電線　軍機大臣會議現値各省事務繁冗來往電報關繫緊要者尤多擬自內廷軍機處安設電線達至兩廣兩江湖廣閩浙等省遇有要事以期消息靈通庶免假手於人致滋宣洩刻議此事妥即奏請

●英人要求山西鐵路合辦　昨英國參贊帶同福公司商人至外部要求山西〇〇鐵路與中國合辦外部堂憲答以本部當電商晉撫再與貴國議商合辦之策

●外部照會英使粵省鐵路自築　昨外部咨送英國駐京欽差照會一件略謂本部接准粵督電稱該省鐵路均由中國自築貴大臣應電致駐粵領事通飭貴國公司勿庸干預等語

●新疆巡撫之電陳　護理新疆巡撫電陳該省設立練兵學堂經費尙堪挪用惟槍砲器械需欵甚鉅爲此特希練兵處王大臣垂示方略應先由何項撥欵支用購買槍砲彈藥以備急需等語刻聞練兵大臣籌畫此事

●外部大臣與各公使會議　外務部大臣日昨與駐京德美法等國公使會議事件謂中國於東省開埠之時請多劃地段推廣商務並向外部議商設立館所以便添派領事云云

●太后派人視慶邸之病　昨聞內廷最近消息　太后派總管李蓮英往慶府看視如慶親王病愈仍着照常入內當差並傳諭慶邸甚感激聞在十五前後慶即請　安云

●榮軍機議設立工藝廠　榮大軍機在內廷大閣會議設立工藝廠因款項支絀遂拜謁慶邸商籌挪欵之策慶已應許籌欵辦理矣

●肅邸欲黜革喇嘛　聞理藩院的確消息肅邸與喀拉沁王議商將達賴喇嘛名號奏請黜革令有大臣密查藏內賢能喇嘛補授名號聞此事不日奏請云

●以船捐代籌鐵路經費　粵督岑春煊電奏該省鐵路經費以船捐代籌　旨著該督盡著辦理當由軍機處覆電矣

●通飭蒙藩設立報館　肅邸昨與喀拉沁王議商請該藩通飭蒙旗族盟長設立報館用漢蒙文字演成白話俾蒙人傳講閱看以期開通風氣蒙藩大以爲然

按喀拉沁王與肅邸爲姻親喀拉沁王已將俄國如何結交蒙古各項情形與肅邸默知並言俄人已有在蒙地開報館之消息是以肅邸力勸蒙藩自立報館速破結俄之心以固自己團體實與蒙人大有俾益

●允伯都訥開埠　黑省伯都訥廳當黑省交通之衝商貨輻輳行旅林立實爲東三省之要埠故程留守爲振興商務抵制俄國起見月前呈遞奏摺請速作開埠以資商務已由商部會同外部奏請仿湘省開埠章程從速開辦業經允准

●鴉片烟專賣今年必可實行　政府欲從某督之請興辦鴉片專賣之法聞將飭外部向英日公使詢取香港臺灣專賣章程酌採辦法大約此事今年必欲舉行

●東三省近政　奉天將軍奏稱現已於城廂內外興修馬路以便開闢商埠云云

●黑龍江將軍程德全奏請將荒蕪之地全行招民開墾凡係耕種墾地者不收徵稅即令此項農民每月分期操演無事時照常耕種有事時人盡兵卒既可籌練兵經費又可免遊手好閑滋生事端云云

●日俄交涉事件擬誌　因日淸協商交涉事件已有成議日本政府次開日俄交涉以議定滿洲行政北海漁業利權薩哈連境界問題及通商條約等事件並聞政府決計不特派辦理全權專員俟派駐公使之後即可用尋常外交上之照覆以行磋磨云

白話

●學務處白話勸學示

爲曉諭事照得去年八月初四日奉過一道　上諭是說停科舉辦學的事業已由直隸總督袁宮保恭恭敬敬謄出來曉諭民間大約民間是都知道的了袁宮保又體貼到那不通文理的人恐怕他們不曉這裡頭的意思所以又教直隸學務處照着　聖諭廣訓直解的樣子把這道　上諭用白話演說出來給大家看看爲的教那識字不多的人一看就可以明白就是不識字的人一聽亦可以曉得這纔不枉負我們　皇太后　皇上這一片的苦心大家亦就知道學堂是不可不辦的了去年八月初四日　上諭的意思是說直隸總督和別省的將軍督撫上了一本奏請　朝廷把那科舉事立刻停止並且商量了一個妥當辦法這個意思是很與我們中國古時候的制度相合的中國古時候夏商周三朝如今叫作三代那三代的時候二十五家立一個學堂叫作塾五百家立一個學堂叫作庠一萬二千五百家立一個學堂叫作序諸侯立的學堂叫作頖宮天子立的學堂叫作辟廱那個時候國家選取人才和那人民講求學問都不出學堂以外可見立學堂這件事本是我們中國舊有的好法子再看看那外國西洋的國如那英法德俄東洋的國如那日本他們國裡頭學堂更是齊備有大學堂有高等學堂有中學堂有小學堂有女學堂還有兵農工商一切學堂並且連聾啞瞎子亦有學堂他們通國人民到了七八歲的時候無論窮富貧賤全要入幾年學堂學些個有用的學問他要是不入學堂就要罰他父母這叫作義務教育言其這幾年的學堂是人人的責任不能不入的所以東西洋各國的人民人人明理人人愛國所以國纔能富纔能强如今我們中國的時局一天比一天爲難所以求人才一天比一天要緊從前我們中國求才的老法子全是指着科舉那一條路那科舉的人才全是紙篇子上的學問本是不中用的所以　朝廷屢屢的下　上諭教各省督撫多立學堂教化全國的人都求些實在學問都成個有用的才料這是何等深心何等的厚意前者管學大臣已經奏准的把鄉會試取的額數分三科把他減完了如今直隸總督和別省將軍督撫上的奏摺說是科舉一天不停民間還是求科舉的多入學堂的少要想快快推廣學堂非立刻停了科舉不可這些說話的很有見識　朝廷如今依了他們的話就從這丙午科起首所有那鄉試會試歲考科考一齊停止了所有以前舉人貢生秀才年紀不甚大的准他們入師範學堂就是年紀大點的亦替他們想出一個出身來（未完）

NEWCHWANG, SATURDAY, FEB. 10, 1906.

THE "VICTORIA ROAD INCIDENT" (Part IV).

Did the Council really owe the Viceroy the apology it offered?

The fact stands out that one of its public servants gave him an affront in the streets. Was it given deliberately? The policeman, being a Chinese serving on the police force for four years in Tientsin, he could not but tell at a glance that it was the Viceroy's procession. Nothing as yet said to the contrary, we shall adhere to our belief that such was the case. His apologists try to palliate his offense by ascribing it to excessive zeal to his duty. We are inclined to accept this extenuating statement with due reserve. Suppose he had not interfered with the Viceregal procession then and let it pass along the middle of the street as we think it did. Would this have constituted a culpable, or even blamable, neglect of duty on his part? We cannot believe it. He is held sadly lacking in tact at that evil moment, even by his strongest sympathizers. They are saying that, but for this defect, he would not have been put in trouble, as his other luckier comrades on the Road have not been. Now let him have all the tact in need. How could it have saved him, except by desisting him from the interference he did make? Saved, yet he would have had to answer for a neglect of duty! Inconsistent!

Again, had he always displayed as intense zeal when foreign troops had no doubt very often cantered past him in a body more to the middle of the road than punctiliously to the right? Knowing something of Chinese character, we cannot but doubt this, too. Let us assume that we are right in this doubt. Thickheaded as he was, he must have known prefectly well that he could stand aside from the marching procession as he had done, to our mind, from passing troops before, and he stood in no fear of being taken to the task on that account then of all occasions. What he could do willingly with foreign troops, he might have been induced to do, we should think, with the Viceregal procession. Is not the Senior Viceroy of China the direct representative of theEmperor of China to which he owes his allegiance? If a sense of helpless inferiority had deterred him in the case of foreign troops, another of superior self-importance must have nerved him to molest the Viceregal procession. An unnatural son of China! Are we doing him any injustice to infer that a vain wish to flaunt his self-importance before the eyes of his fellow-countrymen—the cavalry escort and also one of the few foremost dignitaries, in China—more than any worthier motives, prompted him at that moment? How many precious grains of zeal to duty could be found in the balance anyhow? What extenuating element could his overloud sympathizers see in the offence that they should have displayed such a vigor in vindicating him? In our opinion, his magnified idea of self-importance for most part and stupidity in choosing an ill time for flaunting this self-importance, have caused all the serious trouble. In the name of what authority he thought his position had invested him with, and from such a motive blinded by lack of sense, this man did deliberately perpetrate an offence which "had disturbed the courteous and friendly relations so long subsisting between the Viceroyalty and the British Municipal Council." The Council held itself responsible for investing such a fellow with the authority he had so abused. It was persuaded that an apology was due. It straightway tendered a formal one and has made it public. This gracious act was wholly of a piece with the generous Briton who stands for honourable peace. It recommends itself to the sincere appreciation of every gentleman irrespective of nationality. This redress ought to have closed the ugly rent of the Viceroy's wounded dignity, as far as the foreign eye looks upon it.

Nevertheless, an apology is, to a gentleman, a costly gift to be offered another. He would withhold one, whenever money, or sometimes even blood, can replace it. It is such a drain on moral courage. In this case, however, there is not much that humiliates, the only fault lying in the keeping of this man in the service. Considering the established custom of employing Chinese for police duty and their common proneness to abuse their authority, the burden of the fault weighs comparatively lightly on the shoulders of the present Council.

驛名　發　着　時刻
大連　發午前　七、三〇
旅順　着　一〇、四九
營口　發午後　十〇、二五
大石橋　着翌前　一二、二〇

報

昨日の氣溫
昨日の氣溫　最高溫度十七度四　最低溫度十二度二
昨年との比　高三度八　高十三度一

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

和洋御料理 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎

東京一流 かき飯

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力 並ニ溫泉 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 松月亭 本店 營口元神廟街一四三号

和洋料理御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園捷

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御注文 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

料理 鋤燒 吉樂亭 營口元神廟街 亭主 元權豊

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街 ブツシ商會東
川喜鐵工塲

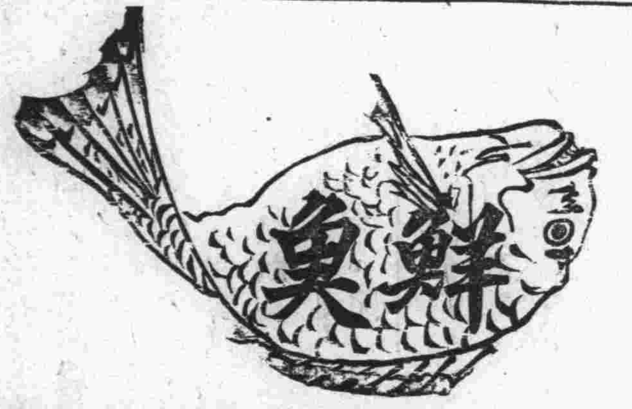
御旅館 天津 芙蓉館 駐屯軍御用 並西洋料理（電話四十一番）

北京 扶桑旅館 東單牌樓大街路西 客室清潔料理鮮新

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番） 日本郵船會社荷客取扱 歐米滊船乘船取扱 館主 米田藤吉

發賣 料木 標子 木板 ◇ 塩川商會
清國營口二本町二五五號 主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内 鹽川商會

外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘
建築用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



弊店儀雜貨事業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號 ◇ 森屋洋行
大連大山通り二丁目 仝支店
遼陽西門外 代理店 林洋行
奉天小西門外（電話十六番） 代理店 米田洋行

軍票騰貴致候に付弊行より五歩引を以て正札價格御用達可申候!!
銘酒菊正宗新着
尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候
雜貨商 加藤洋行（營口電話八十番）
本店 天津日租界 大阪 支店 營口 北京 出張所 遼陽

◎フレノロジー 頭腦を觀察して身の上はんたんをなす 營口豊濟門街廿三號 李俊氏宅の西半町 利生堂

營口永世街 營口印字局

雜貨卸商 在元神廟營口街 關東公司雜貨部

雜貨 醬油 味噌 清酒 營口西北街 阪神組

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭 ○亞鉛板 ○洋釘 ○干塲魚 ○石灰
◇K 喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

大連 東洋ホテル 大連鐵道停車塲附近民政署前兒玉町

爲替相場（二月九日）
上海は 百圓に付六十七兩二錢五分
天津向は 百圓に付一百〇八五圓五十錢

日本品最近物價表 加藤洋行調査
樽物類
菊正宗 三斗九升入 銀二十圓
麒麟正宗 四斗四升入 同十七圓
鑵 ラッキヨ 四打入 同十三圓
辛子 五打 同十四圓五十錢
漬 四打 同九圓五十錢
鷲ミルク 仝 同十八圓
石炭（飯塚工程局）

MANCHURIA DAILY REPORT. Subscription 4 cts. a copy.
本紙定價 一枚ニ付 銀四仙 一ケ月前金 銀八十仙 半ケ年前金 四弗八十仙